

＜先週の説教から＞

『詩編 50 — 讚美のいけにえを献げよう』

武田真治牧師

詩編 50:1~23 ヘブライ人書 13:9~16

本日の詩編 50 編はだれが歌った詩であるのかと見てみますと、最初の1節に「アサフの詩」とあります。これまで出てこない、初めて登場して来た人物です。今迄の詩編では最初からほとんど「ダビデの詩」と題されていました。ようやく 42 編になって「コラの子の詩」という題に変わりました。「コラの子」というのはモーセに遡ることができる、古くからの幕屋や神殿での祭儀や礼拝で“歌い手”を受け持っていた人達であったと想定されています。それに比べて「アサフ」という人物は、ダビデと関係する“歌い手”であったと考えられています。ただ、単なる歌い手というよりは、むしろ“預言者＝神様の言葉を取り継ぐ者”としての役割も担っていたようです。それが、この詩編 50 編の言葉遣いとともによく表れています。4節で「神は御自分の民を裁くために上から地に呼びかけられる。『わたしの前に集めよ、わたしの慈しみに生きる者を。わたしと契約を結んだ者を。』」と、まるで神様の代弁者のように語っているからです。それ故、このような詩編を＜預言者的詩編＞とも呼ぶのです。

内容は、上記の4節にありますように、神様を信じる者たち＝イスラエルの民に向かって語られています。彼らに対して、先ず「献げ物についてお前を責めはしない。お前の焼き尽くす献げ物は常にわたしの前に置かれている」(8節)と言われます。これは、当時の神殿での祭儀(＝動物を罪の代償として献げる諸儀式)そのものは盛んに、かつ正しく行われていたことを示しています(故に「責めはしない」と)。しかし、決定的に欠けているものがあると！それが「告白を神へのいけにえとしてささげ、それから、わたしを呼ぶがよい」(14節)という言葉なのです。つまり、儀式や祭りの実施には熱心であるけれども、肝心の“神様への畏敬や悔い改めの心”が伴ってないと。大切なのはその神様への「こころ・思い」ではないかと。それが何よりの「神へのいけにえ」であり「それから、わたしを呼べ」と言われているのです。

礼拝や儀式、献げ物が、神様を信じる《真摯な思い》から発するものでなくては、とうてい神様に我々の願いや祈りは通じない、聞かれないではないかと！これらの言葉は、今の私たち教団の教会に多い、形式ばかりに捕らわれ、正しい礼拝を献げれば神様に喜ばれると考える傾向に対して、根本を問う“問い掛け”となっているように感じます。「心」が伴わない儀式や礼拝ほど、主に嫌われるものはありません。

この詩編の最後の言葉は「告白をいけにえとしてささげる人は、わたしを栄光に輝かすであろう。道を正す人に、わたしは神の救いを示そう。」とあります。素晴らしい《約束の言葉》ではないでしょうか。このことは、新約聖書のヘブライ書でも「だから、イエスを通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神様に献げましょう。」(13章 15節)と教えられている言葉にも通じています！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 4月 9日(水) 20:00
II. 4月 10日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙
 祈祷主題: 受難週早天祈祷会を覚えて
 担当者: (水) 飯島 (木) 小杉
 祈りに覚える人: 武田さん 田嶋さん

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女49 計66
 祈祷会 I. 男3 女2 計5 II. 男1 女6 計7
 日曜学校 幼稚科5 小中科9 計14

【次週礼拝】

4月 13日(日)
 聖書: レビ記 23:1~3
 ルカによる福音書 6:1~11
 説教: 「ルカ④—何のための安息日？」

武田真治牧師

讚美歌: 307(1)、32、303(聖歌隊)、306、528、29(1)

【次週当番表】

司式: 保坂長老 奏楽: 村上 礼拝: 齋藤長老
 献金: 岡田 岡野 受付: 鈴木 橋本
 会堂準備: 飯島 岡 金刺 中村
 森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会
 礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会
 ・壮年/婦人/ダビデ 各会 ・聖歌隊練習

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 4月 6日

日本キリスト教団 上尾合同教会
 牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
 TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>